

応援、母ちゃん！18

～ 夫の育休 ～

たまむら ふみ

玉村 文

育休修了証

および日頃の感謝状

- 成果報告
- 保育園の準備、行事への参加
- 毎日の献立考えること、食事の用意
- 買い出しと管理
- 次男くんの寝かしつけ、授乳以外のお世話
- 散髪、通院、遊び相手
- 家づくりのための調査と選択、記録化
- 洗濯と掃除（これはいつも）

などなど、たくさんやりました！ありがとう！
これからも、長女ちゃんの時のように離乳食作りの協力と、妻への労いの言葉を毎日1個は伝えることを、よろしくお願いします。



1. はじめに

わたしは子ども達をお風呂に入れたあと、夫が子どもたちに怒っているのを聞いて髪の毛も乾かさずに子ども達の対応をしなければならず、休息ニーズが満たされずうんざりした気持ちになりました。あと 5 分、わたしに時間をちょうだい。もしこのリクエストが叶えられたらリラックスした気持ちになります。

2024 年 4 月 18 日に第三子を出産しました。37 週 6 日、3336g の男の子でした。我が家は子どもは 3 人までと決めたこともあり、妊娠出産は今回で最後。最後なので、夫も初めて育休を取得することになりました。男性の育休は、過去の記事にも書いていましたが、2022 年度の男性の育休取得率は 17%と、まだまだ多くの人取得しているものではありません。とはいえ、第一子を出産した 2019 年度と比べると、周囲からは育休取得をチラホラ聞くようになってきました。今回は、育休を取得した夫をもつ妻からのレポートです。

2. N さんの事例

数年前に第一子をし、1 年間の育休を経て職場復帰された N さん。N さんの夫は、彼女が仕事復帰した際にバトンタッチで育休を 1 年間取得し、家事育児をメインで担ったそ

うです。ここでは、バトンタッチ育休の事例を紹介します。

N さんは、夫が育休を取得する前の夫婦の関係は「離婚の話も出るほど」良くなかったと話します。N さんは出産前はバリバリと働き給与も夫も変わらないほど。仕事も好きで、キャリアを諦めたくない、もっと働きたいという思いをもちながらも、子育てをメインで担いながら夫を羨ましく感じていました。些細なことで喧嘩になると、もともと感じていた N さんの不公平感がより刺激されて、大きな喧嘩にまで発展していきました。そのことに危機感を感じて、N さんは夫婦関係の改善のためのカウンセリングにも通ったそうです。

夫婦の関係改善を模索するなかでのバトンタッチ育休。結果的に、N さんの夫が育休を取得した経過で二人のパートナーシップはとても良いものになっていったそうです。男性の育休取得がパートナーシップの改善や良好な関係性に良い影響をもたらしたのはなぜか。N さんはこう話します。「夫の気持ちもわかった」と。N さんの夫が育休を取得する代わりに、N さんがフルタイムで仕事復帰してみると、N さんの上司から「夫が家にいるのであれば、残業もしなさい、子どもの病気を理由に休まないで」と直接言われたそうです。その出来事から、N さんは夫も N さんが育休中に仕事のプレッシャーも感じながら働いていたんだと思いを馳せることができるようになったと言っていました。

N さんのこのような話を育休中のママ達数人と聞いていました。聞いていたママ達はこぞって、パートナーの気持ちに理解を示すことができるようになったのが素晴らしいと感じていました。育児をメインで担

っている立場のママ達は、「こんなに大変だとパートナーにわかってほしい」という気持ちが強く出てしまうと振り返ったのです。これにはわたしも共感しました。

3. 我が家の事例

育休を取ってみたいと思いつつも様々な事情でこれまで取得できなかった夫に、「子どもは3人までなので、今回で最後だよ」と育休取得を促したのはわたしです。キャリアがストップしてしまうことへの不安や、同僚に迷惑をかけてしまうことへの罪悪感をもっていることは理解したうえで、これからも長く働き続けるためにも一回お休みをとることは必要な時間だと思ったためです。長い仕事人生をみると、数ヶ月の育休取得は些細な休みですし、自分のキャリアを考えられるまとまった時間にもなると思いました。

出産前にそのようなやりとりをして、夫は会社と交渉し2ヶ月の育休を取得することが決まりました。わたしも産後の回復に時間がかかったため、夫が家事育児を担ってくれたり、二人で子ども達の対応をできたことはとても助かりました。そして、マイホーム建設のための時間としても活用したため、まとまった時間を打ち合わせ、内覧や夫婦の相談に充てることができました。夫にはもっと自分の時間としても使ってもらおうと思っていたのですが、結果的に家事、育児、マイホーム建設に時間を割くことになっていました。そのような期間でしたが、一度だけキャリアコンサルティングをオン

ラインで受けることができたようで、夫と仕事を相対化する時間をもてたようです。リスクリングまではできなかったと言っていました。家事と育児の両立だけでもマルチタスクのちからは向上したように見えていました。

産後の身体が回復するまで、夫がメインで家事と上の子達のお世話を担う予定でした。でも上の子達もそれぞれ自分の気持ちがあつて、「お母さんがいい」となることが多く、上の子達の寝かしつけは夫に代わってもらうことはできませんでした。その代わりに、赤ちゃんの夜泣き対応を3日ほど代わってもらいました。夜間授乳があつたりこれまで夫も仕事があるため、夜のお世話はほぼわたしが担ってきました。それを体験してもらったのです。夜間の対応を代わってもらった次の日は睡眠不足から体調を悪くしてしまう夫をみて、これはやはり頼れないなと感じて役割を戻すということを2ヶ月で3回ほど繰り返しました。夫が一晩でしんどくなることを、わたしは3人目まで毎晩担っているんだと夫にわかってほしいとっていました。とても大変なことを担っていると認めてねぎらってほしいとっていました。「わたしの気持ちをわかってほしい」ニーズがとても強くあり、夫の気持ちを理解しようとする余裕はありませんでした。

今回夫が育休を取得したことで、夫はわたしへの理解を深めたように思います。育休を振り返って「なにもできなかった」と話した夫。家事育児をしてあつという間に一日が終わり、今日何もできなかったと感じる育休時間。体験して同じことを感じてくれたことで、わたしへの理解を深めてくれ

ました。一方で、わたしは N さんの体験談を聞いて、夫への理解の前に育休取得をしてくれた感謝や、「なにもできなかった」と話す夫にそんなことはないと思いたいと思うようになりました。それを形にしたものが、「育休修了証」。本文の頭に載せてあります。この育休修了証を夫に手渡しし、わたしからも夫に歩み寄る姿勢を示した夫の育休最終日でした。

4. 終わりに

男性の育休取得からパートナーシップを考えるにあたって、N さんの事例はわたしに影響を与えました。子育てをメインで担う人への配慮を求めてしまうこの気持ちは、わたしが育児の当事者であるためだと思います。とはいえ、社会でも、育児をメインで担うママ達の気持ちをわかってほしいというメッセージは、年々増えてきているように感じます。パートナーに育児を担ってもらう戦略として、このメッセージは使われてきたと思います。最近では、産後うつを予防する観点からもこのような発信があります。

産後の女性の身体や心は大きな変化に直

面しますし、回復していない中育児が始まってしまいます。それを一人きりで担うことも少なくありません。コロナ禍ではより孤独感も強まりましたし、孤立無援状態で子育てを担うリスクが大きいことは社会が証明しています。

育児者への理解や寄り添いととも、パートナーの立場や気持ちを理解することがより強いパートナーシップのために必要なのだと思いました。

さて、我が家はどうか。夫が初めて育休を取得した 3 人目の産後が最も夫婦喧嘩が少なかったような、そうでもないような。とはいえ、夫婦二人で一緒に子育てする経験は、関係の安定を促したように思います。

破裂の可能性が高まるため、一般的には 3 回程度までと回数を重ねない方が良いとされています。わたしも子ども 3 人共に帝王切開での出産だったので、今回で最後だと決めました。ですので、最後に貴重な体験ができたことを嬉しく思います。帝王切開は麻酔が効いているから痛くない出産だと言われることも多いのですが、術後の痛みは大きく身体の回復にも時間がかかります。なんせ 50 cm、3 キロの赤ちゃんを出すために、20 cm ほどお腹を切るのですから。